

BY BLUE

2007
VOL

20

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー

- 水の逸話を訪ねて……P1
「保津川下り」京都府亀岡市～嵐山
- 食材を活かす水の妙……P2
「ウイスキー」
- 水とともに……P5
「打ち水」
- おもしろ科学実験水のふしぎ……P10
「ふんすいに挑戦！」



つくってみよう!

うらのページに、
この折り紙の
折り方がのってるよ!



保津川下り(京都府亀岡市～嵐山)

紫の大岩は、はやくも船頭の黒い頭を圧して突っ立った。
船頭は「うん」と舳に気合を入れた――。

明治40年、夏目漱石が職業作家として初めて執筆した「虞美人草」。

この作品の中で、保津川下りの

その移ろいゆく情景や

瀬を下る舟頭の竿さばきが描かれています。

保津川下りは水流を利用して

下流へ物資を輸送するため

8世紀末に始まったとされています。

当時は上流の丹波から木材を

輸送することが主な目的で、巨岩やげんげしい落差、

浅瀬などが随所にあるため、

筏でしか下ることができませんでした。

慶長11年に京都の豪商・角倉了以が

水路を開き、筏だけでなく搬送船も

通れるようになると

丹波の良質の米・麦・薪炭なども

輸送されるようになりました。

その後、電車や車など交通手段の発達で

筏や搬送船による水運利用が姿を消していくと

明治28年頃には遊船として観光客を乗せる

川下りが始まりました。

それから約100年。

全国に名を知られる舟下りとなった今では、

年間約30万人の観光客がそのスリルと

自然美を楽しんでいます。

ウイスキー

原酒の味を左右する

竹林から湧き出す名水。



①



②



③

ウイスキーに適した軟水
「マザーウォーター」

ゲール語の *uisge beatha* (ウイシユケ・ベアハリ命の水) にその名を由来するといわれるウイスキー。水割りの水はもちろんのこと、製造過程での水の質も大切な要素となります。

果実を直接発酵させて作るワインと違い、モルトに水を加え発芽させるウイスキーづくりには素材の味を引き立てる軟水がよいとされています。

スコッチウイスキーで有名なウイスキーの本場・スコットランドでは、この仕込み水を「マザーウォーター」と呼び、美しいウイスキー作りの重要な要素と位置づけています。

茶聖も愛した水で仕込む
ジャパニーズウイスキー

日本でウイスキーの醸造が始まったのは、1923年に京都の郊外、山崎に日本初のウイスキー工場「サントリー山崎蒸溜所」の建設が着手されたことに端を発

します。

山崎は茶聖・千利休が茶室「待庵」を築き、わび茶の第一歩を踏み出した地としても知られる土地。桂川、宇治川、木津川という水温の異なる三川が合流するため、霧が発生しやすい湿潤な気候であることと、茶聖も愛したほどの良質な軟水が湧き出している地であること。「良い原酒は良い水が生み、良い熟成は良い自然環境なしにはあり得ない」という信念を持ち続けた当時の社長、鳥井信治郎氏にとつて、山崎の地はウイスキーづくりの理想郷にも思えたことでしょう。

蒸溜所内の竹林からこんこんと湧き出す清水は、名水百選のひとつ「離宮の水」と呼ばれています。蒸溜所近くの水無瀬神宮で汲むことができるこの名水。マザーウォーターと同じこの水で水割りを楽しむ通常の方もいらっしやるそうです。

①蒸溜所内を流れる仕込み水②ウイスキーは長年樽で熟成している間に少しずつ蒸発し、10年も経つと当初の8割程度の量になってしまいます。この、樽から減ってしまうウイスキーは「Angels' share (天使の分け前)」と呼ばれ、ウイスキー独特の味わいと香りを生み出す要素となっています(写真真内、右は4年目、左は12年目のもの)。③どんな食べ物にでも合うウイスキー。つまみの定番といえばチョコレートですが、最近はあんこと一緒に飲む人もいますか。自分に合った飲み方を探すのもウイスキーの楽しみ方の一つかもしれませんね。【撮影協力=サントリー山崎蒸溜所】



「BYQ ネットワークの集い2007」を開催しました!

琵琶湖・淀川水系の水環境を改善するためには、市民やNPOなど多様な主体が連携して取り組むことが求められています。そこで、今年は「水質」をキーワードに、BYQ(財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構)が取り組んでいる様々な活動を通じて知り合った人達が楽しく学び、交流できる「BYQ ネットワークの集い2007」を平成19年1月21日に、OMMビル(大阪市中央区)で開催しました。また、午前中は同時開催として、毛馬閘門の仕組みなどを体験し、水上から大阪の町並みを見る「水上バスでゆく 大阪・大川周遊めぐり」を行い、120名以上の方が参加されました。集いには、日頃BYスタンプラリーに協賛して頂いている市民団体の方、あるいはWAQU²(わくわく)調査隊員として活動されている個人の方など200名近くの方が参加され、水質浄化実験や水質調査の発表会、参加者による意見交換などを行い、大盛況のうちに終えることができました。

BYQ ネットワークの集い 2007 集い1

身近にできる水質浄化実験と水質調査についての学習会

*パックテスト…簡単な試薬を用いて水質を調べるキット

「集い1」の学習会には、30名ほどの子どもたちを含む約80名が参加しました。BYQの和田主任研究員から「水の汚れときれいになる仕組み」の講義を受けた後、ペットボトルを用いたろ過装置の工作にチャレンジしました。その後、パックテストの正しい使い方を学習し、工作した装置を用いて水質浄化を行いその効果を確認しました。



①自分で工作したろ過装置に汚れた水を流してどうなるか、ドキドキの作業です。ゆっくり流すのがポイント!!! 回通しただけで透明になるのでみんなびっくりしました。②しょうゆを入れると水がどれくらい汚れるのか。においや色、水質(今回はCOD、リン酸)について調べました。大人の方も無口になって作業に集中。③お話しは子ども達には難しい言葉もありましたが、全員が真剣に聞いてくれました。気づいた疑問をBYQのスタッフに質問して色々なことを学びました。④こぼさないように集中し、スポイトを用いて水質測定に必要な水の量をさがっています。次回はどんな水質を測定するか楽しみに!!

BYQ ネットワークの集い 2007 集い2

水質調査の現状と地域における水質調査の発表会

「集い2」の発表会では、「水質調査データの見方」と題して、龍谷大学理工学部助教授の岸本直之氏にお話しいただきました。琵琶湖・淀川流域で日頃活動をされている4団体による水質調査の発表会を開催し、その後、会場の約120名の参加者も交えて、水質に関する疑問などについて意見交換が行われました。



①②岸本先生のお話しは、調査している水質項目(pHやCOD、BODなど)とは何かというお話から、湖沼や河川での水質の変化とそれぞれの水質項目の関係についてわかりやすく説明していただきました。③発表会に参加していただいた団体(写真左から)猪名川・神崎川水質研究グループ、NPO法人地域と自然、NPO法人びわこ豊稗の郷、淀川水系の水質を調べる会④最後に、2会場で分かれて行われた「集い1」と「集い2」の内容について全体発表を行いました。

BYQ ネットワークの集い 2007 基調講演

「指標生物を使った調査と生物からのメッセージ」と題して、社団法人 淡水生物研究所 森下郁子氏にご講演いただきました。



BYQ ネットワークの集い 2007 パネル発表

BYスタンプラリー協賛グループなど23の市民団体の方に、会場内に展示したポスターを使って、日頃の活動に関する報告や発表をしていただきました。



自分の住む町の近くで活動している団体だけではなく、琵琶湖・淀川流域のいろいろな場所で、さまざまな活動をしている人々がおられることを改めて感じました。

同時開催

『水上バスでゆく 大阪・大川周遊めぐり』

水上バスに乗って、大阪・大川を見学し、毛馬閘門を通過して淀川まで周遊しました。



参加者のご意見(アンケートより)

【学んだことは…】

- ・ろ過の仕組みが具体的に・体験的に理解できたこと
- ・貝など自然は自分の力で、浄化するサイクルが出来ているのに、人間がそのバランスをくずしてしまっているのでは…
- ・水質が良くなれば、それでよいのか?!
- ・目からウロコでした。
- ・水の大切さ
- ・いろんな活動が行われていること

【良かったことは…】

- ・水質の変化に感激しました。
- ・実験と疑問点がすぐ聞けたこと。
- ・頭で考えるより、実際に作ってよかったです。
- ・子供がとても喜んで楽しそうであった。

- ・様々な地域の方と意見交換ができ、水環境についても貴重な情報が得られた。
- ・水上バスで、普段いけないところへ行って勉強になった「百聞は一見にしかず」
- 【がっかりしたことは…】
- ・はじまる時間が遅れること
- ・時間が長いこと
- ・人数が多すぎて、狭かったこと
- ・ビデオ発表など、後ろにいる人は見えにくい

その他たくさんのご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見・ご要望は、次回の集い開催の際に参考にさせていただきます。(事務局)

けがれを清め、涼をとる 暮らしに生かす水の方

冷房機器や舗装道路などの普及に伴い、その光景を目にする機会が減った打ち水ですが、近年の地球温暖化やヒートアイランド現象の対策としてその効果が見直されています。

生活習慣としての打ち水 おもてなしとしての打ち水

1970年代頃まで、京都のまちなかでは門掃きとともに、打ち水が毎朝の大切な仕事でした。乾燥した地面を湿らせて埃が立たないようにする、気化熱を利用して涼をとる―住環境が現在ほど発達していなかった頃、人々は生活の知恵として水を撒いていました。

このように打ち水には、合理的な生活習慣としての側面が考えられる一方、人を迎える「おもてなしの作法」としての二面もあります。

古くから日本では水にはけがれを払う力があるとされ、神社にある「手水」や、生まれたばかりの赤ん坊を洗う「産湯」など、水による「清め」の様々な習慣が生まれてきました。こうした考えから、家の周りを水で清めることに

は訪れる人々に心地よい気分をもたらしたいという、おもてなしの気持ち表れていると言えるのではないのでしょうか。

初水、中水、立水― 茶道における打ち水

日本の礼儀作法に大きな影響を与えたとされる茶道でも打ち水の光景を目にすることができ

ます。茶道には「露地の三露」という言葉があるように、お客様を迎えるとき(初水)、茶会の中立ち(中水)、茶会の終盤(立水)と茶事の進行に合わせて三度打ち水を行います。こうすることでお客様はいつもすがすがしく露を帯びた庭の風情を見ることができ

ます。このように、夏冬関係なく行われる茶道の打ち水にも、おもてなしとしての側面を感じることが

同じ時刻にみんな水まき 手軽にできる温暖化対策

生活習慣や作法の二環として行われてきた打ち水ですが、20世紀以降深刻化する地球温暖化や都市のヒートアイランド現象対策として、その効果を科学的に検証しようという実験も行われています。

1㎡あたりに1ℓの水をまくと気温が2度下がる―国土交通省の研究機関がはじき出した試算をもとに2003年に始まったのが「打ち水大作戦」と呼ばれる実験。この実験は毎年「大暑」から「処暑」までの1か月間、オフィスやクーラーなど電力消費が最大になる正午過ぎに打ち水を行い、都市のヒートアイランド現象をやわらげようというもの。

4年目を迎えた昨年は全国各地で770万人の人が参加するなど、新しい環境ムーブメントとして定着してきています。大阪で行われた「御堂筋打ち水大作戦2006」では約3000人の参加者が梅田から難波までの約4kmの道に20tの水を散布。現地本部前では、気温が2度下がるなど、その効果も確認されています。

貯めた雨水や風呂の残り湯など、水を二次利用することだけが打ち水大作戦のルール。どなたでも気軽に参加できます。

今年は7月23日から1か月に渡って行われるこのキャンペーン。あなたも打ち水で涼を感じてみませんか。

●打ち水大作戦のポイント

二次利用水を使うこと― 基本的なルールはこれだけ

打ち水大作戦では、水道水の使用はご法度とされています。水の二次利用を最も大事な基本原則とし、打ち水には、雨水やお風呂の残り湯、エアコンの室外機にたまった水などを使用することを呼びかけることで、生活の中での「水の再利用」を促しているのです。

これは環境への配慮という側面はもちろん、水に対する節約意識の強かった江戸時代の庶民生活の名残ともいえます。

道具も特別なものは必要なく、家にあるバケツや柄杓もしくは手で撒くだけでもOKです。

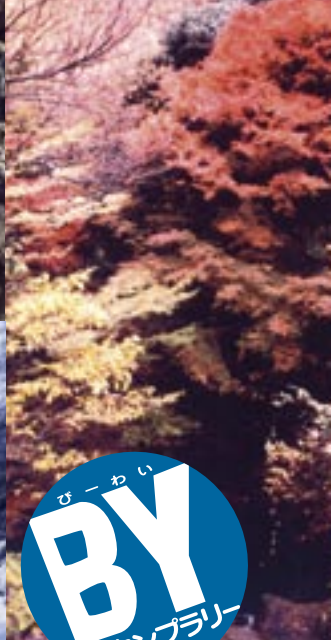
撒く場所は通行人や車の通行の迷惑にならないよう注意しましょう。



昨年、大阪・御堂筋で行われた「御堂筋打ち水大作戦2006」の様子。公募で選ばれた10人の「打ち水娘」が浴衣姿でイベントを盛り上げました。



①自然豊かな近木川は春夏秋冬、季節によって様々な表情を見せる②体ごと川に浸かり、楽しそうに清掃活動に取り組む子どもたち③代表者 橋本夏次さん



●BYスタンプラリー！協賛グループ紹介

近木川流域自然大学研究会

市民が主体となった活動で

日本一汚い川を「遊べる川」に

■今回は代表者の橋本夏次さんにお話をうかがいました。

貝塚市を東西に流れる近木川。

橋本さんは、93年度と97年度の2回「二級河川水質全国ワースト1」となってしまったこの川を、市民主体の活動で再生しようと職とボランティアを使い分け活動してきました。

近木川市民フォーラム*で出た「近木川を遊べる川にしてください」という小学生からの提言に応えるため、全ての流域で川と親しめるようにすることを目的に、川の上流から下流にかけて「山の分校」「川の分校」「海の分校」を作る「近木川流域自然大学」を構想し、川の分校づくりをより具体化するため、01年に近木川流域自然大学研究会を発足しました。

そして、山と海の分校は既にある施設を利用し、残る川の分校を「子どもたちの力」で作ろうとしています。

貝塚市の職員だった橋本さんは、

長年の経験から「まちづくりにとつて大切なのは行政ではなく、住民の力」だと感じ、93年に市民活動の拠点としてオープンした「市立自然遊学館」の設立に携わり、以来、小学生を対象とした「近木つ子探検隊」、大人たちを巻き込んだ「近木つ子会議」の結成にも携わってきました。

「私の活動が『貝塚が好きやねん』という気持ちから始まっているように、まちづくりには『郷土を愛する気持ち』が欠かせません」と話す橋本さん。子どもたちが自分たちが住むまちを好きになるためにはどうすればよいか——その答えが近木川流域自然大学研究会での活動なのです。

研究会活動の主役は子ども。会の主な活動として、小・中・高校生を対象とした出前授業を行っています。「知識を押しつける

だけでは子どもたちは楽しくありません。大切なのは子どもたち自身が自らの体験で学び、知恵をつけていくこと。私はそのヒントを与えているだけです。

遊びから学ぶ——橋本さんから川での遊び方を教わった子どもたちは、より安全に遊べるように清掃活動にも熱心に取り組むようになりました。そうした活動から市民の環境への関心も高まり、水質ワースト1の時に25mg/lだったBOD値が約3分の1にまで改善されるなど、成果も目に見えて現れてきています。

子どもと近木川のつなぎ役として活動してきた橋本さん。「活動の最終目的は、地域の人と社会をつなぐことです。『貝塚大好き人間』を育てるため、今後も人と地域のつなぎ役として、一歩さがって活動を続けていきたいと思っています」。

BYスタンプラリーとは、協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、事務局に送付していただく、素敵な景品を差し上げるというもの。これまで1,639人の方がご応募くださいました。また協賛グループは、55の市民団体と20の水関連施設で構成されています。(平成19年1月末現在)

*近木川市民フォーラム…11年続くこのフォーラムは、会の一年間の活動を振り返り、次の年のテーマを決める場となっている。

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（Biyo センター）は、琵琶湖・淀川水系の水環境改善のために、自然の浄化能力を生かした水質改善など、新たな水処理技術を開発する研究開発の場として、また、水環境改善に対する取り組みについて、多くの人々に知ってもらうための場として設置された施設です。



実験レポート

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
琵琶湖・淀川水質浄化研究所調査研究部

研究員 和田浩幸

クレソンを利用した水質浄化特性実験

近年、湖沼や河川の水質保

全対策の一つとして、植物を

用いた水質浄化手法を用いる

ケースが各地で見られるよう

になってきています。植物を

用いた水質浄化は、生態系の

生活サイクルを利用して水質

浄化を図る方法で、維持管理

費が安価であり、また、住民

参加型の施設として導入しや

すいという利点があります。

Biyo センターにおいても浅

池型浄化実験施設でクレソ

ンなどの有用植物を用いた水

質浄化について実験を行い、

その浄化効果の確認や維持

管理方法の検討を行ってき

ました。この浄化手法は、①

施設構造が単純（浅いコンク

リート水路）でランニングコ

ストもそれほどかからない、

②食用植物等を栽培できる、

③維持管理（間引き）で発生し

た植物は堆肥として利用で

きる、④環境学習や水環境保

全に関する広報・啓発の場

としても利用できるなどメ

リットが多いのが特徴です。

しかし、浄化効果はそれほど

高くなく、大量の河川水を処

理するにはある程度の用地

の確保が必要になったり、成

長した植物の間引き作業が

重労働であったり、いくつか

の課題もあります。

現在 Biyo センターでは、こ

のような課題を解消すべく、

効率的な施設運転に関する実

験を行っています。例えば、①

クレソン植栽面積を変化させ

た場合の浄化効果や、②施設

に通す水の量を増加させ現状

と同じ浄化効果が得られるか

どうかや、③植物の間引きを

行わなかった場合、水質浄化

効果にどのくらいの影響がで

るのかを調べています。具体的

には、流下方向ごとの水質を

調べたり、植物の生長や被度[＊]、

泥の堆積状況などについて一

定間隔で観察を行っています。

今後は、これらの実験から

得られた結果を解析し、実際

の施設の運用方法を検討して

いく予定です。

[＊]被度：植物が地表を覆っている面積の割合

■植物を用いた水質浄化のメカニズム

流入水



流出水

クレソンなどの植物が汚れのもとになる窒素やリンを吸収します。



根のまわりに付着した微生物や根のまわりに生息する昆虫や微生物が有機物を分解します。



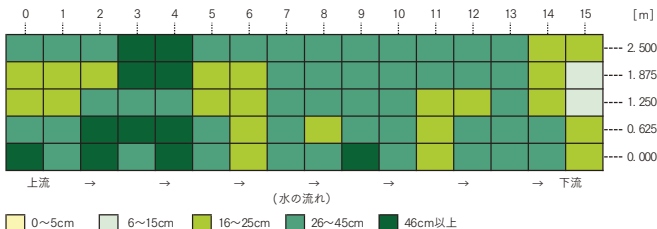
浅池型浄化実験施設



クレソン

■クレソンの生長丈

クレソン植栽からの経過日数：91日



上流部では泥の堆積量が多く、クレソンの丈や被度が高くなる傾向がある。泥の堆積がクレソンの生長を加速させ、クレソンの生長に伴って根が密になり、さらに泥が溜まりやすくなっていると考えられる。

BYQ INFORMATION

お申し込み・お問い合わせ：(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 TEL.06-6202-1267 FAX.06-6202-1317 ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

平成19年度助成対象事業・活動募集

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、琵琶湖・淀川の水質保全に関わる活動に対し、助成事業を行っています。

次の内容で平成19年度助成対象事業・活動を募集します。

対象となる事業・活動は以下の2項目です。

I 琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業

- ・地域に密着した身近な水質浄化事業
- ・水質浄化事業に必要な材料調達システム作りおよび材料調達
- ・水質浄化事業におけるリサイクル推進事業
- ・上記に関連する研究

II 琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動

- ・水質の保全・改善に関する活動
- ・自然生態、親水、水源涵養の機能を保全・改善する活動
- ・水環境について知り、理解する活動

両助成ともに1件あたりの助成限度額は30万円。助成金の使途は、助成目的を満足するものであれば、特に制限を設けませんが、助成を受けた団体又は個人の事務所そのものの運営に関する経費、人件費等は除きます。

- 申請受付期間：～平成19年5月15日(必着)
- 申請方法：助成を希望される団体・個人は、応募様式に必要事項をご記入の上、お申し込みください。
 - ・各助成の応募には助成資格を設けていますのでお問い合わせください。
 - ・募集要項・応募様式は、当機構のホームページからダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない場合は、お問い合わせください。
- 問い合わせ先：(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部

身近な川の水を自分で調べてみませんか？

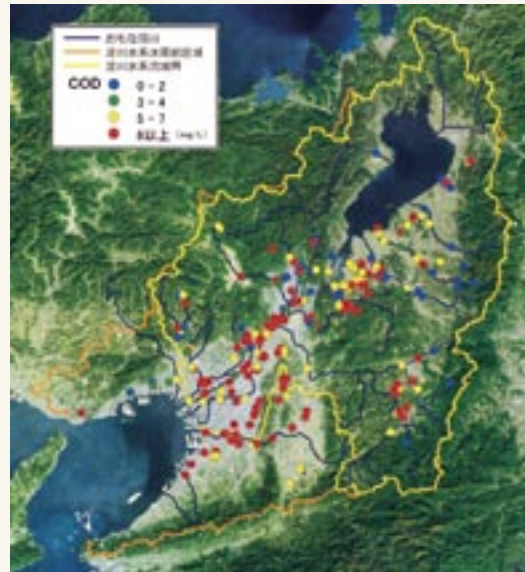
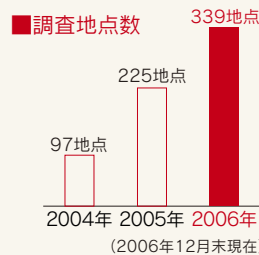
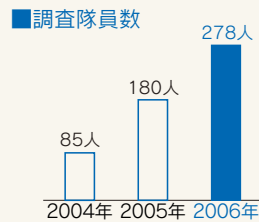
2007年 WAQU² 調査隊 隊員大募集!!

水質マップ(COD)

実施日：2006年8月

WAQU²調査隊って何？

- 身近な川への関心が薄れてきている中、昔のように川と親しむきっかけをつくることで、水環境を考え直す時間づくりを目指して、平成16年(2004年)から活動を始めています。
- 調査隊員になると、身近な川の汚れ(水質)を簡単なキットを使って調べることが出来ます。
- 調査活動は、1年間で4回程度を予定しています。
- 水質調査に参加すると、水質マップを進呈します。



応募内容

- 応募資格：琵琶湖・淀川流域に住み、水環境に興味がある方
- 応募期間：随時募集中
- 応募方法：申込用紙はBYQホームページからダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない方は、お問い合わせください。

事務所移転のお知らせ

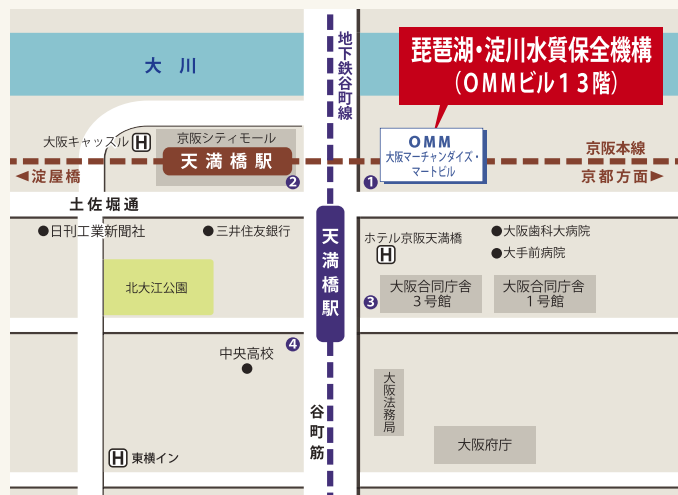
平成19年4月1日、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構の事務所が移転いたします。

○移転先

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号
大阪マーチャндаイズ・マート(OMM)ビル13階
TEL 06-6920-3035 FAX 06-6920-3036

○交通アクセス

最寄り駅：京阪電車「天満橋」駅 東出口
地下鉄谷町線「天満橋」駅 1番出口
それぞれの出口から OMMビル地下2階に連絡





めざせ! ^{みず}水アーティスト

ふんすいに^{ちようせん}挑戦!

金沢市の兼六園という公園にあるふんすいは日本最古のものといわれ、ポンプなどの動力は一切使わずに、水の高差だけを利用して水を噴き上げさせています。サイフォンと呼ばれる、この仕組みを使った簡単ふんすいを作ってみよう!

用意するもの

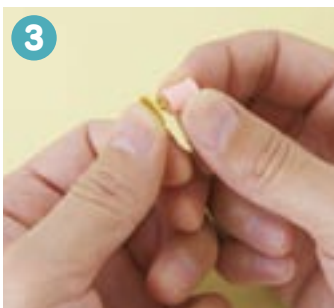
たれびん、ストロー (2本)、紙ねんど、ペットボトル、細いビニール管 (2~3m)、両面テープ
※画びょうやカッターナイフを使うときは大人に手伝ってもらいましょう



1 ビニール管の両端にストローを差し込む



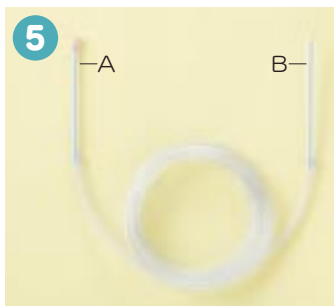
2 たれびんのふたを外す



3 ふたに画びょうなどで穴を開ける



4 チューブにさしたストローの片方にたれびんのふたを着ける (両面テープなどで貼ると固定しやすい)



5 ①~④の手順でできたビニール管



6 ペットボトルの口付近にチューブが通る程度の穴を開ける



7 ⑥で開けた穴に (B) の方からチューブを差し込む



8 (A) を紙ねんどで固定する



9 チューブを差し込んだペットボトルに水を入れる



10 チューブの曲がったところより水の方が高くなるとチューブから水が噴き出す



一度水が噴き出すと、ペットボトルが空になるまで噴き出し続ける

今回のふしぎワード

サイフォン

もとの水面と管の出口の圧力の差を利用して水を移動させる方法で、水槽にいっぱい入った水を簡単にくみ出したいときなどに用いられます。今回のふんすいだけでなくコーヒーマーカーなどにもその仕組みを取り入れたものがあります。

大阪府における 雨水利用促進の取り組み

大阪府では年間平均

1300mmの雨が降ります。こ

れに府域面積を掛けると約25億トンになり、これは琵琶湖の貯水量の約十分の一に相当します。雨は大きな天然資源ですが、今の都会生活の中ではほとんど活用もされず、河川や下水に流してしまっているのが現状です。「もったいない」話です。

そこで、平成17年度から大阪府では、雨水利用の可能性を考え、水みどり豊かな環境都市の構築・水循環の再生を図るため、雨水利用による地域環境活動推進モデル事業

「おおさかレインボウぶろじえくと」*を実施しています。この事業は雨水タンク等を製造・販売している企業に無償で自社製品を提供してもらい、一般募集した府民モニターにその製品を実際に使ってもらい、意見やアイデアを集積して企業にフィードバックすると同時に、雨水利用をきっかけとした環境活動を地域で広げていただくといった仕組みです。

現在、活動の中心となるNPOが学校や環境市民団体等と協働で府域16ヶ所に実践の場を創出し、屋根に降った雨を雨どいで集めて雨水タンク（150～1000ℓ）に貯え、打ち水や緑化散水、遊び、清掃等に使っています。なお、雨水タンクの水质を分析しましたが、特に問題はありませんでした。

「おおさかレインボウぶろじえくと」*を実施しています。この事業は雨水タンク等を製造・販売している企業に無償で自社製品を提供してもらい、一般募集した府民モニターにその製品を実際に使ってもらい、意見やアイデアを集積して企業にフィードバックすると同時に、雨水利用をきっかけとした環境活動を地域で広げていただくといった仕組みです。

今後は、更なる活動の輪を広げるため、教材や事例集による普及啓発の促進をはじめ、府民やNPOに対する支援・推進体制の強化など新たな展開を予定しています。

＊「おおさかレインボウぶろじえくと」は、「雨を宝」として大切に使うことから、このように名付けました。

「おおさかレインボウぶろじえくと」



レインボウ(宝)ちゃん



事業イメージ



ワークショップや各種セミナーを実施しています。

子どもの環境学習の様子

詳しくは「おおさかレインボウぶろじえくと」ホームページをご覧ください。
<http://www.epcc.pref.osaka.jp/kanri/jyunkan/usui/reibow.html>

つくってみよう!

今回の生き物 ▶ かえる

作者：新宮文明
おりがみくらぶ(<http://www.origami-club.com/>)より転載

1	2	3	4	5	6	
半分に折る	半分に折る	②から袋を開いてつぶす	つぶしたところ	④を裏返し、同じように折る	三角の袋を作る	
7	8	9	10	11	12	13
他も同じように折る	⑦のできた三角の袋を上へ折り上げ、袋をつぶす(他も同様に)	真ん中に向けて破線で折る(裏も同様に)	手前側の下半分を上へ折り上げる(左右同様に)	足の部分を外側に向けて折る	頭部は下向きに折る	手足の形になるように左右同様に折れば完成

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構賛助会員(50音順)

計20社(平成19年2月1日現在)

(株)アクアテルス琵琶湖事業部、いであ(株)、(株)オオバ大阪支店、(株)環境総合テクノス、近畿技術コンサルタンツ(株)、(株)建設環境研究所、(株)建設技術研究所大阪本社、国際航業(株)関西支社、滋賀県下水道保全事業協同組合、(株)修成建設コンサルタント、(株)新洲、帝人エコ・サイエンス(株)、(株)東京建設コンサルタント関西支店、(株)西日本技術コンサルタント、(株)日建設シビル、(株)日水コン、日本工営(株)大阪支店、(株)ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社、八千代エンジニアリング(株)大阪支店

平成19年4月1日、事務所が移転します。

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号
大阪マーチャндаイズ・マート(OMM)ビル13階
TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036

ホームページアドレス
<http://www.byq.or.jp/>



財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もってうるおいのある地域社会の形成と関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWA KO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名付けました。

